

企画展
Museum Collection Exhibition

仏具の世界

The Wonders of
Buddhist Ritual Implements



美の
かたち
信仰と



仏を^{しょうごん}荘厳・^{くよう}供養し、仏道を修めるために必要な道具である仏具。その範囲は、^{がらん}伽藍装飾から僧の生活必需品まで多岐にわたります。仏具には、仏道実践に適した形が与えられていますが、その中に美的な特質を見出すこともできます。この展覧会では、主に館蔵品から、さまざまな場面で用いられる仏具を紹介し、仏の教えと仏具の造形美の関わりを探ります。

根津美術館のコレクションの礎を築いた初代根津嘉一郎（1860～1940）は、仏教で世の中を善導するという大きな理想を描き、無宗派の寺院建立を構想しました。このため仏教美術に対する関心も高く、コレクション中には仏教に関わる書蹟や絵画、彫刻の優品のみならず、工芸にも優れた作例を見出すことができます。これまで当館では仏教絵画・彫刻を多く取り上げてまいりましたが、仏教工芸にもご注目いただきたく、このたび仏具に焦点を当てた展覧会を企画しました。

第1章では、用途を切り口に四つのカテゴリーを設け、具現化させた仏の世界を厳かに飾るための荘厳具、仏に香・華・灯をささげるための供養具、質素ながらも真理に到達するために必要な僧具に加え、密教法具を紹介します。第2章では、女性によって発願・供養された仏具を特集します。長く美しい毛髪や、繊細な刺繍が施された小袖といった女性ならではの持ち物を用いてつくられたそれらの仏具には、善美を尽くす布施の心が表されています。

この展覧会を通じて、仏具の造形美を手掛かりに、古代より仏道を実践してきた人々の心に思いをはせていただければ幸いです。

2023年

2月18日(土)～3月31日(金) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZUMUSEUM





重要文化財
ほうそうげぎんひょうもんけさぼこ
宝相華銀平文袈裟箱
1合 木胎漆塗
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵

総体を黒漆塗りとした箱で当館には袈裟箱として伝来する。文様の形に切り抜いた銀の薄板を器表に貼り、漆で塗りこめた後、文様部分の漆のみを剥ぎ取る、今日では平脱^{へいだつ}と呼ばれる技法で装飾されている。宝相華文をモチーフとした対称性の強い構図は、前時代の奈良朝の雰囲気をとどめる。



せいとうぎんぞうがんぼんじ ほうそうげもん こうろ
青銅銀象嵌梵字宝相華文香炉
1口 銅製銀象嵌
朝鮮・高麗時代 13～14世紀
根津美術館蔵

高麗時代の朝鮮半島で作られた高い脚つきの香炉。薄い銀板を梵字の形に切り抜いて炉身側面4か所と口縁6か所に象嵌し、その周りに優美な唐草文を銀の線象嵌であらわす。香による仏前供養は、献華や燃灯とともに重要視された。



こんごうごこけい
金剛五鈷鈴
1個 青銅
日本・鎌倉時代 13～14世紀
根津美術館蔵

柄に五つのきっさき（鈷）を持つ金剛鈴。鈷の下に位置する把^{つか}には、3枚の蓮の花びらを重ねた蓮弁飾とその間に鬼目^{きもく}と呼ばれる突起があらわされている。金剛鈴は密教法具の一つで、その音により人が本来備えている仏性^{ぶつしょう}を呼び覚ます。



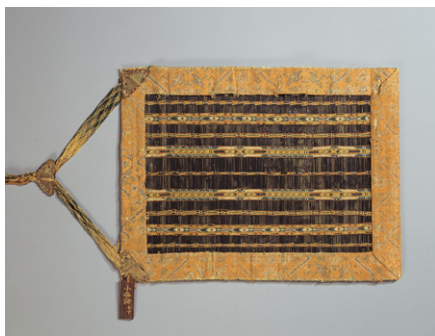
あかじこうしれんじゆはなもんにしき しょうこうぎん
赤地格子連珠花文錦（蜀江錦）
1枚 絹
中国・隋～唐時代 7世紀
根津美術館蔵

法隆寺に伝わる蜀江錦の一種で、幡^{ばん}と呼ばれる仏堂荘嚴具の一部であったと考えられる。鮮やかな赤地を背景とした繊細な格子文様の中に、花文入りの連珠文と唐草文を表す。※展示期間：前期（2/18〔土〕～3/12〔日〕）

百万塔
2基 木製彩色
日本・奈良時代 8世紀
根津美術館蔵



えみの おしかつ
恵美押勝の乱（764年）の平定後に称徳天皇によって発願された100万基の小塔のうちの2基。塔身に納められた無垢浄光^{むくじょうこうきょう}経の陀羅尼は最古の印刷物としても知られる。法隆寺伝来。



じんご じきょうきょうちつ
神護寺経 経帙
1枚 竹、絹
日本・平安時代
12世紀
根津美術館蔵

経帙は複数の経巻をひとまとめに巻き包むための道具。神護寺伝来の本作は、黒く着色した竹ひごを、色とりどりの糸で編んで長方形に整え、周囲を錦で縁取りする。経巻の荘厳は仏舎利荘厳と同様に善美が尽くされた。

しろりんず じ はなたでわくあおいきくふじうちわ もよう そめぬいからばん
白綸子地花立涌葵菊藤団扇模様染繡唐幡
2 旒 絹
日本・江戸時代 弘化4年(1847)銘
国立歴史民俗博物館蔵

高位の武家女性所用の小袖から仕立て替えられた幡。江戸時代末期に宮家の菩提寺として中興された京都・照臨院に伝来した。同寺に弘化4年に寄進された荘厳具の中には、公家や武家の女性服飾を仕立て替えた幡や打敷が多数みられる。

※展示期間：前期(2/18 [土]～3/12 [日])



くろうるしめりさいえ け こ
黒漆塗彩絵華籠
1枚 紙胎漆塗彩絵
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵

さんげ
散華を盛るための器。紙を貼り合わせた素地の全面を黒漆塗りとし、胡粉で下地を整え緑青・朱・金箔で彩色する。八葉蓮華文の蓮弁間に三鈷を配す。愛知県・萬徳寺に同様の作例(重要文化財)が残る。



しろりんず じたてわくしき はなもよう こまで
白綸子地立涌四季花模様小袖
1領 絹
日本・江戸～明治時代 19世紀
根津美術館蔵

すりひった
白い綸子地に摺匹田と刺繍で立涌文や、梅、菊、牡丹など四季の花束をあらわした小袖。江戸時代後期に武家女性が正装として着用した小袖によく見られる模様で、上の唐幡はこのような小袖を仕立て替えたと推測される。

※展示期間：前期(2/18 [土]～3/12 [日])

展示室5 西田コレクション受贈記念1 IMARI

当館顧問・西田宏子より陶磁器など工芸品 169 件を受贈。その中の優品を 3 回に分けてお披露目するシリーズ、第 1 回は肥前国有田の伊万里焼です。



いろ えもんしやうもんおざら
色絵紋章文大皿
肥前
1枚
日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵
西田宏子氏寄贈

オランダ貴族から注文を受けて制作された伊万里焼の大皿。プーレン家の子女とブレデローデ家の子息の1702年の結婚によって生じた家紋を中央に配す。

展示室6 花どきの茶

花どきとは、花の盛りの時季、とりわけ桜の花が咲く春の一時をさします。麗らかな春の訪れを楽しむ季節の茶道具約 20 件を取り合わせます。



つらゆきしゅうざれ
貫之集切
ふじわらのこうせい
伝 藤原行成筆
1幅 紙本墨書
日本・平安時代 11世紀
根津美術館蔵

きのつらゆき
紀貫之の家集『貫之集』の11世紀に遡る冊子本の断簡。春のひととき、親しい人々が集まり、桜を題として詠んだ和歌が書かれている。

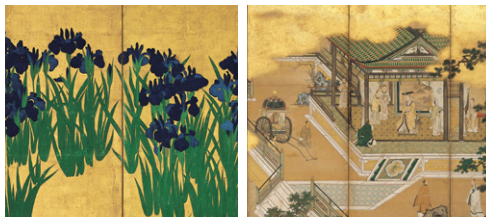
開催概要

展覧会名	企画展「 <small>ぶつぐ せかい しんこう び</small> 仏具の世界—信仰と美のかたち—」
	日時指定予約制 ご来館前に当館ホームページでの日時指定入館券の購入にご協力ください。 (根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方もご予約ください。)
主催	根津美術館
開催期間	2023年2月18日[土]～3月31日[金]
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ・当日券(一般1400円)も販売しております。 (ご予約の方を優先してご案内いたしますので、当日券の方は少々お待ちいただくことがあります。 混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。) ・2023年2月14日[火]より当館ホームページで予約を受け付けます。 ・ご予約は1グループ4名までとさせていただきます。団体でのご来館は当分の間ご遠慮ください。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536(代表) website https://www.nezu-muse.or.jp
広報・取材のお問合せ	学芸部 広報課 所/村岡 Tel. 03-3400-2538(直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。
プレスリリースと画像申請書は、当館ウェブサイトの「プレス関係の方へ」からダウンロードも可能です。

次回展

特別展「**国宝・燕子花図屏風**
—光琳の生きた時代 1658～1716—」
2023年4月15日[土]～5月14日[日] (5月9日[火]～14日[日]は夜7時まで開館)



元禄文化を象徴する名品「燕子花図屏風」を中心に、江戸前期から中期に及ぶ約60年の絵画の歴史を切り取ってご覧に入れます。

左: 国宝 燕子花図屏風(右隻・部分) 尾形光琳筆 日本・江戸時代 18世紀
右: 両帝図屏風(右隻・部分) 狩野探幽筆 日本・江戸時代 寛文元年(1661)
いずれも根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2023.1.修正)